

ふるさと再発見

第4代島原城主 高力高長（1605・1677年）

高力高長公は「隆長」と表記されることもあり、通常「左近太夫」と名乗っていました。1655（明暦元）年、父・忠房公の死去により島原藩主となります。

高長公は書籍、特に漢書（『論語』などの中国の書）の収集家でした。幕府の儒学者の日記には、全国でも指折りの書物を収集する大名として、漢書は高長公、和書（『源氏物語』などの日本の古典）は、

当時の丹波国福知山藩主・松平忠房公が挙げられています。残念ながら高長公の蔵書は今は伝わっていませんが、ともに島原にゆかりのある大名が国内有数の蔵書家であったことは大変興味深く、忠房公の蔵書が松平文庫として伝わっているだけに大変惜しまれます。

一方、藩政については必ずしもうまくいったとはいえません。高長公を強く諫めた家老・志賀玄蕃（甚三郎）を成敗するに至ったことが伝わっており、家臣団の

統率がうまくとれなかったことをうかがわせます。

なお、玄蕃が没した地は「甚三郎山」（市指定史跡）として伝えられ、今も祠が祀られています。

以前は奉納相撲が催されていた。

1667（寛文7）年、幕府が巡見使を島原に派遣した際、島原の領民が過重な年貢をかけられていることを巡見使に訴え出しました。幕府は再調査した後、同年2月に高長公を改易し、陸奥国仙台藩に配流しました。1677（延宝5）年、高長公は同地で没しました。同時に嫡子・常長は出羽国庄内藩に、二男・秀長は信濃国松代藩にそれぞれ預けられますが、後年2人は赦され、高力家は旗本として存続していきます。



甚三郎山にある志賀玄蕃の祠

（社会教育課学芸員 吉田 信也）

地域おこし協力隊コラム16

協力隊、なんしょって？

地域おこし協力隊 松原正武

こんにちは。地域おこし協力隊の松原正武です。

FMしまばらで島原半島に昔から語り継がれる豊かな民話の世界に島原半島ジオパークの視点を加えて、有明民話の会「くすのき」の皆さんが一話ずつ丁寧に語る番組が放送されています。

以前は、言葉だけで民話が作られた場所の情景や地形など、ジオに関係する情報を伝えていたのですが、6月から撮影を行い、臨場感が持てる映像をインターネット上で伝えることができるようになりました。

この番組は、企画を北田貴子さん（自由空間きた田）、民話の語りを金子加代子さん（有明民話の会「くすのき」）、島原半島ジオパークの話と監修を大野希一さん（島原半島ジオパーク協議会）、そして、映像撮影と編集を私が行って

います。

最近、制作した民話「みそ五郎の足跡」を次のQRコードから見るができます。

また、インターネットで「民話こここ」と検索すると、「みそ五郎の足跡」以外の民話も見ることができます。

「民話こここ」の新たな展開として、島原半島の民話の世界をバーチャルジオツアーとしてインターネット上で公開していきたいと考えています。そして、国内外の多くの人に、「民話こここ」の取り組みを知ってもらい、島原半島の魅力と豊かさを感じて欲しいと思います。

▼問い合わせ先 政策企画課
（☎8012）



民話について語る金子さん（左）と大野さん（右）